

Green Brave

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT



Round.2

FUJIMAKI GROUP FUJI GT 450km RACE

2023年5月3日(水) ~4日(木) 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

■ 得意の富士で 3 位表彰台を獲得！ トップと僅差のランキング 4 位をキープ ■

SUPER GT の第 2 戦が連休で賑わう富士スピードウェイで行われました。レース距離は 450km。GT300 のエントリー台数は 26 台です。予選日(水曜日)の天候は晴。公式練習は 9 時 05 分から行われ、吉田選手、川合選手の順にコースイン。タイヤの感触を確かめながら、クルマのフィーリングをチェックします。ピットでタイヤを交換後、吉田選手が再びコースイン。川合選手も別のタイヤに交換し、GT300 占有時間を担当します。ベストタイムは川合選手が占有時間中にマークした 1 分 36 秒 273 (4 位)。セッション中、ピットに何度もクルマを入れ、足まわりを調整する場面もありましたが、店舗メカニックの適切な作業により、ドライバーのクルマに対する評価もポジティブです。

予選(Q1)はA、Bの2組に分かれて行われ、GR Supra GTはA組に出場。ドライバーは吉田選手です。吉田選手は予選開始のシグナルとともにコースイン。クルマを左右に振り、タイヤを温めます。4周目からアタックを開始し、翌週に1分36秒344をマーク。6位に入り、2戦連続のQ1突破を果たしました。Q2は約1時間後に行われ、川合選手がコースイン。インターバルの間に路面コンディションは良化しており、好タイムが期待できる状況です。吉田選手のアドバイスをを受けてコースインした川合選手は4周目、スロー走行中のクルマと交錯したものの、1分35秒279の好タイムをマーク。予選4位に入り、優勝を狙えるスタート位置(2列目)につきました。

決勝日(木曜日)の天候も晴。450kmの決勝では2回の給油義務が課されているため、チームはスタート直後に給油を行う、変則2ストップ作戦を立案。コース上の混雑をなるべく避け、ピット戦略でライバルの前に出る作戦です。スタートドライバー、川合選手は4位で1周目を終了。計画通り3周目の終わりにピットへ戻り、給油のみでコースに復帰します。川合選手の順位は25位。4.5秒先を走行するのは1周目の終わりに給油を終えた#2GR86で、同じ作戦をとる実質的なトップです。上位勢のピットインにより順位が上がる中、川合選手は#2GR86とのギャップを縮めようと猛プッシュ。しかし、予想を上回るタイヤの摩耗により、ライバルを上回るペースで周回することができません。2台の差は13周目に約5秒、22周目には約6秒まで拡大。46周目、#2GB86が2回目のピットインを行い、川合選手がトップに立ちますが、その2周後に川合選手もピットイン。店舗メカニックが落ち着いて給油とタイヤ交換を行い、吉田選手がピットアウトします。コースに復帰した吉田選手の順位は11位。#2GB86との位置関係は変わらず、二台の差は約17秒です。

2回の給油義務をクリアし、チェッカーを目指してプッシュする吉田選手。しかし、GR Supra GTに#2GR86を上回るパフォーマンスはなく、61周目には2回目のピットインを終えた予選1位の#56GT-Rが吉田選手の前に入ります。吉田選手は3位キープを現実的な目標に変更し、後続とのリードを保ちながらチェッカー。得意な富士で優勝を記録することはできませんでしたが、3位表彰台を獲得し、ポイントを上積み。チーム、ドライバーランキングともにトップと僅差の4位に上昇し、チャンピオンを狙える位置につけています。



決勝結果 (GT300 クラス)

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT
(吉田広樹/川合孝汰)

決勝：3 位 (92 周、2 時間 33 分 55 秒 666)
予選：4 位 (1 分 35 秒 279)

■ DRIVERS VOICE



吉田広樹 選手

(予選後) 予選後：ドライでありましてテストできていないので、積極的にクルマをいじって、いろいろ試しました。予選が始まり、みんながアタックするまで、自分たちのポジションの浮き沈みがわからなかったのですが、悪くはなかったです。自分たちが持ち込んだタイヤはコンディションに合っていて、そういう意味ではぼちぼちのアタックができたのですが、自分のタイヤの温め方やアタックをまとめきれなかった部分があり、個人的には残念です。ただ、ぼくの役割はベストタイムを出すことではなく、Q2に通すことが目的なので、つなげられて良かったと思います。

(決勝後) 3位という結果はうれしいのですが、優勝を目指していたので、ちょっと残念な部分もあります。今後のチャンピオン争いを考えると表彰台という最低限などには行けたかなと思います。SC や FCY が出ることなく、みんな落ち着いていて、珍しく荒れなかったですね。上位の2台に対して速さが足りず、作戦を含めてこれ以上はできませんでした。今後のために、そこは考えていかなければならないところだと思います。次の鈴鹿では簡単に優勝できないと思うのですが、表彰台を最低限の目標とし、頑張りたいと思います。



川合孝汰 選手

(予選後) ベストタイムを出した週のダンロップコーナーで、目標とするところにクルマがいたので、タイムをちょっとロスしてしまいました。そこがちょっと悔やまれるところです。ただ、1~3位に入るのはもちろん大事なのですが、ポールポジションをとるためにレースをしているわけではありません。決勝で優勝することに重きを置いているので、4番手というのは好都合です。吉田さんのQ1でのタイヤの温め方や走り方のデータと、エンジニアの近藤さんの教えがあり、出せたタイムだと思います。

(決勝後) スタートで頑張ってタイヤを温めたつもりでしたが、思った以上にフロントが硬くて。あと、全車がバトルをしていた影響で、自分のペースで走ることができず、きつかったです。1周目に2号車がピットに入り、そこでのギャップをなるべく作らないよう考えていたのですが、序盤のペースを上げることができず、ピットアウト直後に数秒のリードを奪われてしまいました。そのあとは同じようなペースでついていけたのですが、給油後のタイヤの摩耗が想定外でした。自分たちが持っているデータとは違うところが出てしまったのかなと思います。



GT300 クラス決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R(日産 GT-R NISMO GT3)	93周
2位	muta Racing GR86 GT(トヨタ GR86)	93周
3位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT(トヨタ GR Supra)	92周
4位	LEON PYRAMID AMG(メルセデス AMG)	92周
5位	PONOS GAINER GT-R(日産 GT-R NISMO GT3)	92周
6位	JLOC ランボルギーニ GT3(ランボルギーニ ウラカン GT3)	92周

天候:晴 路面:ドライ ※トップ6まで(出走26台)

GT300 クラス チームランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	65	K2 R&D LEON RACING	29
2位	56	KONDO RACING	27
3位	18	TEAM UPGARAGE	23
4位	52	埼玉トヨペット Green Brave	23
5位	2	muta Racing INGING	20
6位	244	Max Racing	16

※トップ6まで

【次戦予告】 第3戦 6月3日(土)~6月4日(日) 鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市)

■ PARTNERS



Driving Mobile Media Innovation

アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



ADVANCED SUSPENSION TECHNOLOGY

株式会社カロッツェリアジャパン



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社西武ライオンズ



株式会社セーフティライフ



大和ラヂエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



株式会社ドーム



株式会社日本ビューテック



株式会社プロモーション



Mechanix Wear LLC

※50音順